

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. **86**
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



まちづくり協働プラザとは？

NPO法人をはじめとする市民活動団体を育成・支援するために、平成16年1月に、「徳島市市民活力開発センター」が設置されました。現在は「徳島市まちづくり協働プラザ」に改称し、徳島駅前アミコビル7階にて、協働によるまちづくり活動及び市民活動促進のための業務を行なっています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] machipura.tokushima@gmail.com

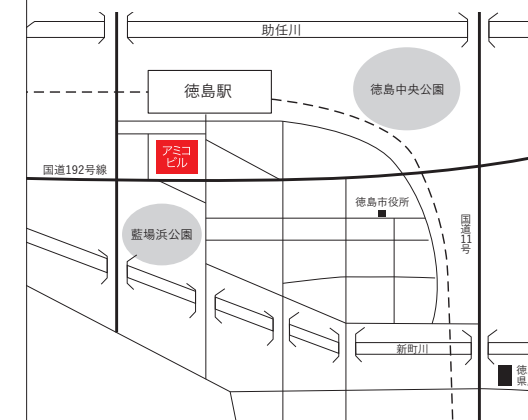
HP



Facebook



ACCESS MAP



所在地

〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1丁目5番地
アミコビル東館7階

お車・バイク・自転車でお越しの方

アミコラインパークの駐車場・駐輪場、
もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

カラダ笑顔(スマイル)



とくしまワークショップらぼ



マネージャー 岸田 侑

助成金申請のサポートや、
NPOと行政、NPOと若者との
マッチングなどに注力してい
ます。ぜひご利用ください。



事務局長 長谷川 隼

広報誌や会計事務を主に担当
しています。会議室や機材の
利用、お悩み相談でも、いつ
でも気軽にお越しください。

PASSPORT.

発行月：2023年6月 号数：86号 発行：徳島市まちづくり協働プラザ
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市まちづくり協働プラザ
(088-611-3886)までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORT.への掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市まち
づくり協働プラザの掲示板へ配置させていただく情報を随時募
集しております。「取材に来てほしい!」「こんなイベントするよ!」
といったお声をお待ちしております!!





健康相談からカラオケまで!? 楽しくつながるアットホームな「お茶会」

ホッとする
場所に
なれたら

健康相談ができる場として「お茶会」の企画・運営をしている団体『カラダ笑顔（スマイル）』。月に1回、利用者たちの楽しみをつくり続ける活動の背景を取材しました。

とにかく外に出るきっかけを！

2019年12月、わずか数ヶ月の間で世界中に広がった新型コロナウイルス。その最中、市民が気軽に相談できる場所を提供し続ける団体がいました。今回は、2021年から活動を続けている『カラダ笑顔』の活動に注目したいと思います。

昨年まで、外出が億劫に感じられた毎日。少しでも体調が思わしくないと、不安になってしまった方も多いのではないのでしょうか。そんな不安を少しでも軽くしようと、『カラダ笑顔』では、高齢者を対象とした健康相談会を開いていました。取材にいくと、理学療法士でもある代表の川村さんが笑顔で迎えてくれます。健康相談会と聞いてイメージするのは、診察室のような少し堅苦しい空間。ですが、川村さんのつくる場所は、“地域の人が集まる屋下がり”のような雰囲気、初めて参加した私も自然と利用者との会話に参加することができました。

活動当初のお話を聞いていくと、現在の活動に至るまでには、コロナ禍だからこそ葛藤が見て取れました。「医療現場にいる人なら、ある程度のリスクを把握できるが、一般の人は外出を避けた

ある「お茶会」では、整体師やケアマネージャーの方々も参加し、利用者と

身体悩みについて自然な形で相談できる場に発展したそうです。

話したければ話し、そうでなければその場を楽しむ。川村さんの心遣いが、あの空間を生み出しているのだと実感しました。

家でもない、職場でもない、

安心できる場所を

となっているのではないのでしょうか。

川村さんは「些細な身体の違いでも、気軽に相談できる機会を提供したい。ちょっとした相談でもプロを頼って大丈夫だと知ってほしい。」という想いで場づくりを行っています。年齢・性別に制限はありません。『病院へ行くほどではないけれど、少し相談したい』『家から出るきっかけがほしい』という動機でも気軽に参加できるので、固く考えず、ぜひ一度足を運んでみてください！

「健康相談を行なっている川村さん



INFORMATION

カラダ笑顔（スマイル）

月1回、「お茶会」を開催し、身体のちょっとした悩みや生活についてなど安心して相談のできる場所を提供する団体。
[TEL] 050-3778-6364(代表:川村 敏仁)

代表はこんな人！
趣味:カメラ・猫カフェに行くこと
ひとこと:「お茶会」のボランティアを募集しています！
お気軽にお問い合わせください。



Instagram

カラオケで世代間交流!?
私が取材させていただいた際に驚いたのは、利用者が楽しみにしていたカラオケの存在です。「え、健康相談会でカラオケ？」という意外性がありつつ、「お茶会」に参加した人たちが音楽を通じて交流する様子は、解放感に満ち溢れていました。今では、「次のお茶会でこの曲を歌おう！」と練習してくれる利用者もいるそうです。お互いの近況報告も楽しそうにしている様子が印象的でした。高齢者を対象に始まった活動ですが、今では世代・性別関係なく、様々な人が集まっています。些細な雑談が健康相談に繋がることも多く、

方がいいという考えになってしまふ。情報の不足が極端な思考に繋がるのだと思う。」と、川村さんは当時を振り返ります。身体のことや生活のこと、誰かに相談したいけれど外出が難しい、出かけたいけれどお店が閉まっている。世の流れを考えると、私たちは家に閉じこもるしかなかったように思います。『カラダ笑顔』では、そんな風に巣ごもりをしている方々に新聞やSNSなどの情報発信を通して活動を伝え、外に出るきっかけをつくり続けました。



コミュニケーションの大切さを じんわりと伝えていくことができた

ひとを
知ろうとする

ワークショップやファシリテーションの研修・勉強会を実施する団体
『とくしまワークショップらぼ』
徳島で楽しみながら、学ぶ機会を提供する2人の活動背景を取材しました。

常にバージョンアップを

もう一人、今回の取材に応じてくださったのは、同団体の中村さん。中村さんは「グラフィックファシリテーション」という手法を用いて、対話を絵や図で可視化し、場を活性化させる役割を担っています。吉野さんが司会進行、中村さんが記録・可視化を行いながら、話についていけない人や、困っている人に声をかけてサポートをしているそうです。他にも2人がつくる現場には様々な工夫が凝らされています。大人が対象の場合は、事前にすることを明示し、学生にはある程度決まった大枠の中で自由に考えてもらうそうです。さらに、服装も相手が求めている印象に合わせてコーディネートするなど、一重に話す技術だけではなく、どう空間を設計するのかという、広い目線でお互いに連携をしながら場の促進に努められていました。

本気で「学ぶ」

二人だからこそ

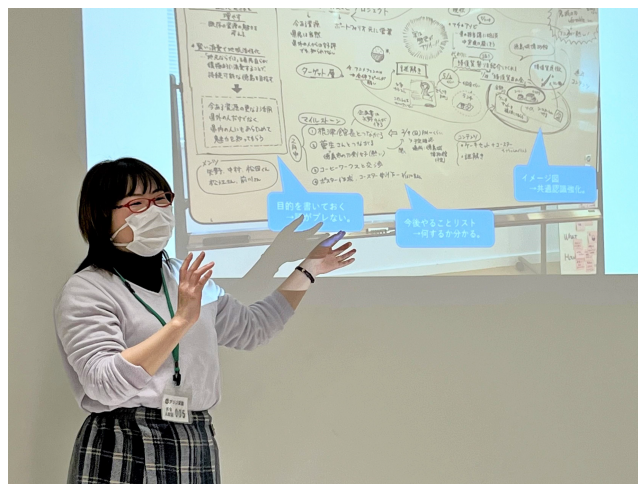
現在、『とくしまワークショップらぼ』は、高校での授業や企業でのワークショップを実施しています。過去には、参

加者に「コミュニケーションは、言葉だけでは伝わらない」というテーマでワーク

ショップを行いました。その結果、参加した高校生が「自分の学校でも同じワークショップを実践し、盛り上がることでできた」と教えてくれたそうです。嬉しそうに過去のエピソードを話す2人からは「学ぶこと」「や」との関わり」に強い関心を抱いていることを感じました。さらに、吉野さんは「僕はカッチカチの場で笑いを振りまきたい人間やから、会場がクスツと笑ってくれたら『よっしゃ勝った！』って思う！」と話しており、楽しい雰囲気大切にされていることも伝わってきます。また、中村さんは「学ぶのが好きではない人に、ちょっとでもゆるく楽しいなって思ってもらいたい。そして、ひとつでも学びを自分のものにしてもらえたらいいな。」と話してくれました。「組織内でのコミュニケーションを促進したい」と悩んでいる方や、「新たな挑戦をしたい」と思っている方にとって、2人のワークショップはきっと役立つはずです。今後もワークショップの開催が予定されているとのことなので、ぜひ一度Facebookやホームページをチェックしてみてください！



↑ワークショップを進行する吉野さん



↑可視化のポイントを解説する中村さん

INFORMATION

とくしまワークショップらぼ

企業や学校などを対象に、ワークショップを企画・開催をしている団体。今後の活動は、HPやFacebookで随時お知らせします。

[Email]

yoshino_0504@yahoo.co.jp

メンバーはこんな人！

吉野：趣味はまち歩き、休日にまつたりコーヒーを飲むのが好き

中村：美味しいものを食べることや、謎解き、推し活にハマっている



HP

生きていると人との関わりは
必須!?

「人との関係性を築くためには、ファシリテーションの要素が重要だ。」そう語るの『とくしまワークショップらぼ』の吉野さん。吉野さんは作業療法士の仕事の傍ら、ファシリテーションについて学ぶ講座を行ったり、ワークショップの設計を行ったりと、会議の場や対人関係を円滑に回すための技術・仕組みを提供しています。ファシリテーションに携わったきっかけは、これまで経験した人間関係におけるジレンマだったそうです。吉野さんは、「地域や社会、学校などで生じる問題を紐解いていくと、結局人間関係のもつれが原因であることが多い。人との関係性をつくっていないかったり、話しやすい雰囲気を作っていないかったり、ファシリテーションに通ずるようなところをきちんと学んでおけば改善できたんじゃないかと思うことがたくさんあって。だからこそ、そういう技術を伝えていく必要があると思ったんよね。」と当時を振り返ります。



↑ 53 名の新規採用職員が真剣に講義へ臨んでくれました。

NEWS 01

徳島市新規採用職員研修

令和5年4月4日、徳島市新規採用職員にむけて「行政と民間、NPO団体との協働の必要性についての講義」を実施しました。今年度から徳島市に入庁した職員に向けて、民間との協働の必要性及び方法論について事例を交えながらお話をさせていただきました。NPO中間支援組織である当プラザとしての役割を果たすため、行政に向けてNPOのことをアプローチする今回のような場を通して、今後も正しい認識を広めていくことに注力していきたいと思います。



↑ 大学生・社会人がチームを組みイベントの打ち合わせをしている様子。この日は、高校生も参加してくれていました。

NEWS 02

ソーシャルビジネスチャレンジ 1期生 活動記録

令和5年6月15日、「ソーシャルビジネスチャレンジ(SBC)1期生」の打ち合わせを実施しました。SBCとは令和4年6月から始まった、大学生や社会人がチームを組み、まちの課題解決を実施していく取組です。令和4年度の成果報告会を終え、今年度では実際に企画したイベントを運営してきました。引き続き、実施・検証を繰り返しているチームに入り、活動に対する支援を続けていきます。

対話型AIを市民活動に活用する

近年、急速に普及しているAIサービスの中でも、「Chat GPT」などの対話型AIが話題になっており、2027年までにはこの市場規模がさらに拡大すると予測されています。
今回は、対話型AIを市民活動に活用する際に気を付けたいポイントをご紹介します。(2023年5月時点)



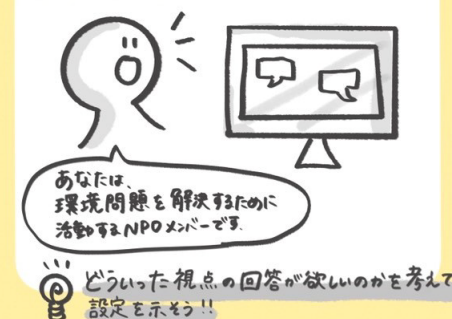
Q・対話型AIとは？
対話型AIは、利用者が音声やテキストで質問などを入力すると、会話形式で回答が返ってくる人工知能のことです。例えば、「NPO団体の課題は？」や「有効な広報活動の仕方は？」といった質問に対して、対話型AIは適切な回答を提供します。これは、機械学習を用いて大量のテキストデータを処理し、人間との意思疎通を可能にした技術です。具体的には、文章の要約・校正、翻訳、プログラミングなどに対応しています。特に、文章の要約・校正は、市民活動団体でも日常的に活用しやすいサービスです。

Q・市民活動に活用するには？
例えば、「団体で開催するイベントのチラシタイトルの生成」や「企画のアイデア出し」「事象に対するメルिट・デメリットの提示」などにも活用することができます。その際、質問や条件の投げかけ方によって、返ってくる回答に差が出てしまうこともあるので注意が必要です。以下の画像に、具体的な投げかけ方をいくつか用意したので参考にしてみてください。対話型AIに頼りすぎることなく、あくまでも自分たちの活動を補助するツールの一つとして使用するという意識が重要です。

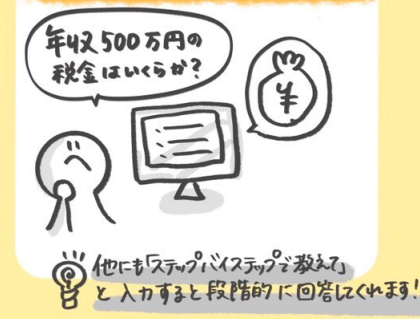
Q・活用する際の注意点は？
① 誤った情報が含まれていることがある
例えば「chat GPT」では、回答を生成する際に何らかの不具合で不確定な情報や架空の情報が含まれてしまうことがあります。さらに、2021年9月時点までのデータで構築されているため、リアルタイムな情報や未来予測などには使用できません。万能ではないことを理解した上で、自分自身で情報の裏付けをとり、文章のチェックや修正を行うようにしましょう。

② 個人情報の扱いに気を付ける
対話型AIは、気軽に使用できる一方で、個人情報や機密情報の保護に十分な注意を払う必要があります。急速に普及したからこそ、きちんとした対応策が蓄積されていないことがあります。インターネットを使用する際と同様、適切なセキュリティ対策を実施し、データの保護と個人のプライバシー権を尊重しましょう。

1. 設定を明確にする



2. 具体的な質問をする



3. アイデアを打ち出してもらう

